

主要施策	産業の充実による活力あるまちづくり
施策の柱	5 安全安心な農産物の生産
施策の分類	農業の振興

■ 現状と課題

○安全な農産物の生産

当町の農産物はつがるにしきた農協鶴翔支店を中心に安全安心なコメ・リンゴづくりを進めていますが、適正農業規範（GAP（※1））を取得する農家は少ない現状にあります。

■ 目指す姿（基本方針）

- 農産物等の生産等の履歴記帳及び適正農業規範（GAP）を積極的に活用し、安全・安心な産地づくりを推進するまちを目指します。
- 日本一健康な土づくりを実践し、環境にやさしい安全・安心な農産物の生産ができるまちを目指します。

○農林水産省パンフレット「どうしてGAPを導入するの？」から

どうしてGAPを導入するの？

産地や農家が安定した経営を続けるためには、次のような取組が必要です。

産地の信頼を守るための体制を作りましょう

安全な農産物の生産は農家の責務です。
また、産地の農家のうち1人でも問題を起せば、産地全体で出荷停止や商品回収を行わなければならない、その後の取引にも影響が出ます。
問題を起さない産地の体制作りが必要です。

農業の取扱いや異物の混入などに気をつけないとね

産地の体制に自信を持てるようにしよう

農作業事故を減らしましょう

農作業による死亡事故が多く発生しており、毎年約400人の方が亡くなっています。一人一人が作業の安全確認を行うなど、事故防止対策を行うことが必要です。

農作業の死亡事故発生率は全産業平均よりかなり高いらしいわ

機械利用時の事故が一番多いよ

日常の作業にも、注意が必要だな

きれいな田畑や水を子ども達に引き継ぎましょう

農業は国土の保全、自然環境の保全、文化の伝承など、農産物の供給以外の役割を果たすことも期待されています。
一方で、環境に負担をかける面もあることから、田畑や水を子ども達の世代につないでいくために、環境に配慮した農業を行うことが必要です。

廃プラなどのゴミは適切に処分しないとね

肥料は必要量を確認してから使おう

CO₂

保守点検を行って燃費向上を図ろう

↓

そのために

GAPに取り組むことは、問題点を明らかにして、産地として防止対策を徹底するために有効です

■ 施策の内容

- 消費者が求める表示内容の正確性に対して、生産履歴の公開と流通情報も組み込んだトレーサビリティ（追跡可能）を図り、農産物の安全性をアピールして付加価値を高めます。
- 適正農業規範（GAP）の認証取得を推進するための経費支援や、農薬使用技術講習会や研修会を開催し、農薬使用基準遵守に取り組めます。
- ポジティブリスト制度（※2）の普及啓発を推進し、生産者に広く周知活動を展開していきます。
- 土づくりにおいて、減農薬・有機栽培を進め、持続性の高い農業生産方式の導入を推進します。

担当：産業観光課

※1 農業生産工程管理（GAP：Good Agricultural Practice）

農業生産の環境的、経済的及び社会的な持続性に向けた取り組みのことであり、その結果として安全で品質の良い食用及び非食用の農産物をもたらすものであると、国連食料農業機関（FAO）で定義されており、農林水産省ガイドラインにおいては、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に即して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと、と定めています。

※農林水産省ホームページより

※2 ポジティブリスト制度

食品衛生法に定められる、残留農薬等に関するポジティブリスト制度のこと。農薬・動物用医薬品・飼料添加物（農薬等という）などを対象に、その成分が一定基準を超えて残留する農作物・食品の、製造・輸入・販売を原則禁止する制度。約 800 の農薬等に基準値が設定され、この基準値を満たす農作物・食品だけが流通できる。食品衛生法の改正により平成 18 年（2006）に導入。